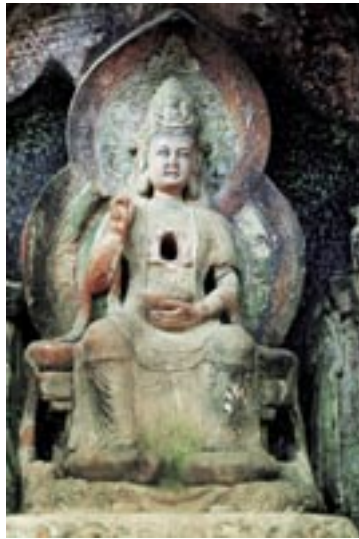


(参考資料) 石宝山の石像と歌垣

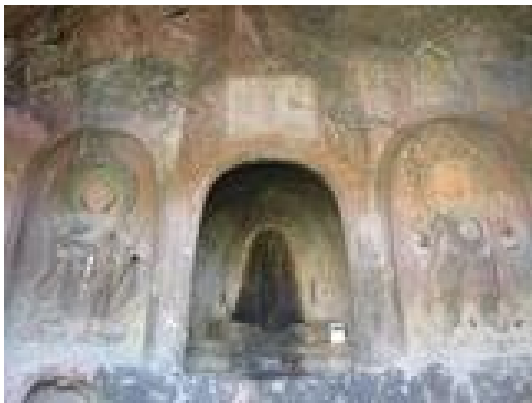
剣川県の石宝山については案内書の資料がなく事情がよくわからなかった。訪れて興味を持ち、調べてみた。本文を補足するためにここにまとめておくことにした。

~~~~~

**石鐘石窟の石像：** 撮影禁止になっていたので自分では撮っていない。下の写真は中国の旅行会社のホームページに掲載されていたものである。



左上は南詔国王と一族の石像、右が胸に穴の開いた観音像である。  
左下は実際には補修中で見学出来なかった女性器崇拜の石窟である。



いずれも中国の他の石窟に観る様な威圧感のある巨大なものではない。  
こじんまりした石窟に彫られた石像はいずれも親しみがある。南詔国時代の作と言われている。往時の歴史や民間信仰を知る上で貴重な資料であるに違いない。

~~~~~

石宝山の歌垣：

文献によると、アジアの恋歌と言われている歌垣は「村の若者が神の住む山に集まり、人垣を作って即興の歌を男女間で掛け合い、求愛する風習」とある。万葉集、風土記の時代、摂津（大阪）の歌垣山、常陸の筑波山、肥前（佐賀）の杵島山が三大歌垣と呼ばれ、他にも日本各地でこの風習があった。これは、稲作文化と共に中国南部、東南アジアを経て弥生時代に琉球、九州に伝わり、万葉の時代には藤原京、平城京でも行われたと言われている。

その歌垣の風習がここ石宝山に残されているというのだ。日本の古代文学研究者の工藤隆さんが白族の施さんと張さんの協力を得て現地調査で収録した模様が記録され出版されている。膨大な調査記録からごく一部がネットに紹介されていた。(1999年収録)



左が若い女性グループで後ろから歌っていたらしい。右が若い男のグループで立ち上がって歌っている。

周囲には大勢の人がたむろしている。衆人の見ている前で「婚活」行動なのだ。収録された歌詞はこんな内容になっている。興味深いので全文掲載する。

「 . . .

男1：風は南から北に向いて吹いてきました。風とともに私の妹も私のそばに吹いて（やって）きました。こんなにたくさん人がいるなかであなたは一番美しい人です。ほかの人も私と同じ意見だと思います。あなたの前にいると心が暖かくなっていくような気がします。妹はここにいるので、私は林の中にも寒いとは思いません。今日はまだ早く、日が沈むまではまだまだ時間があります。

女：兄よ、あなたが来たので私はもうここを離れたくありません。ここで歌うのはただの遊びで、面白いと思うので歌っています。あなたのおっしゃった通りに陽はまだ頭の上にあります。陽が沈むまでにはまだまだ時間があります。私が心配しているのは、私の歌が下手なのであなたに嫌われはしないかということです。

男1：あなたはあまりに謙遜していますね。あなたの歌は一番上手です。今日はまだ時間があるから二人でじっくり歌いましょう。私はあなたのことを三時間ほどさがしましたが、やっとここで見つけることができました。去年も私たちは出会ったように思いますが、どうでしょうか。

女：そう言われると確かに私もあなたとどこかで出会ったことがあるようです。私はお兄さんがここにいるからこの山に登ってきたのです。私は歌える歌が少ないのでたぶんあなたの歌の相手にはなれないでしょう。もう歌は始めたのですから、とにかくどこまでも歌いましょう。

男1：妹よ、あなたは若い。私と恋愛できる年齢だと思います。私が一緒にいると楽しい人だということを、あなたはきっと理解してくれるでしょう。私の歌は下手ですけれども気にしないでください。ただあなたが歌を歌いたくなるのではないかと心配しています。あなたは私に会いにここに登ってきたといいました。私はそれを聞いてとてもうれしいです。

女：お兄さん私のそばに来て歌ってください。そこは道ですから邪魔になります。私はここに咲いている花です。ミツバチであるあなた、花のところへ飛んできてください。花とミツバチが別れ別れになって一緒にいないのはよくありません。是非私のそばに来てください。別々にいるところをみんなに見られて恥ずかしいです。

男1：あなたのそばに来てくださいと誘われてとても嬉しいです。そうしましょう。わたしたちが友達になることはとてもいいことです。あなたのところに来てくださいと誘われたのですが、しかし、今のところ私はあなたの顔も見えません。あなたのところへ行って、ほかの人と間違えたら恥ずかしいです。

女：こんな昼日中なのに私の顔が見えませんか。あなたが謙虚なただと私は知っています。私はあなたを見たことがあります。石宝山であなたに会ったことがあります。あなたが歌の上手な方なのは知っています。私たちは会ったことがあるのですから、心配なさらずにここに来てください。

（女がこのように歌うのは男1が実際に石宝山ではかなり知られ始めている常連の歌い手だということになる）

男1：私はあなたのことを知りません。顔を私の方に向けてくれませんか。そうすればはっきりとあなたの顔がわかります。あなたは人垣の中に隠れているので私はどうしても見ることができ

ません。ほかの人と間違わないように顔をはっきりと見せてください。どうか遠慮しないでこちらを向いてください。

女：恥ずかしいというのではないのですが、今は昼間なので、あなたと直接会うのをためらっているのです。もしも私の村の人に見られたら噂を立てられますから。また、あなたがもし結婚していれば、帰ってから奥さんに叱られますから。そういうことをいろいろ考えるので、立ち上がって歌う勇気がありません。

ここで男の歌手が男2に交代

男2：私もあなたのお兄さんですからふたりで歌いましょう。私もあなたに出会った人の中の一人です。あなたと何かの縁があると思います。出会った場所が道でも、歌垣をしてもかまいません。あなたは歌がお上手ですから是非あなたと歌を歌います。

女：ちょうど私には歌の相手がいなかったところでした。先ほど私は山を下りかけましたが、振り返るとあなたが見えたので戻ってきました。先ほどの男の方との歌は中断してしまいましたから、私はあなたと歌うことができうれしいです。あなたも歌がお上手ですね。歌いましょう。あなたが歌を歌ったら、私もその後を歌います。

(女は歌が中断したと言っているが、実際には、男2が歌を横取りした形になっている。そのことにあえて触れないようにしているところに、女の配慮がわかる。男1はこの後も、三弦を引きながら歌の行方を見守っている。)

男2：あなたが歌い終わったら私もすぐ歌います。まるで私の愛人と歌っているようです。

(女たち、笑う)

私はあなたを見かけてから、ずっとあなたを待っていました。せっかく出会うことができたのですから日が沈むまで歌いましょう。あなたはとっても美しい花ですので一緒にいたいのです。

女：私と一緒にいてもかまいませんが、今日は私と歌いたがっている男の人多いようです。ずっとあなたと歌っていたら、先ほどの男の人が嫉妬をするでしょう。私は一人ですから、あなたが二人と歌うことができません。私は困ってしまいます。できれば、あなたたち二人のうちの一人と歌いたいです。

男2：私たち男二人は一人のようなものです。どちらが歌おうと歌うのが一人なら同じことです。

(女たち、笑う)

一本の足で二つの船をまたいでもかまいません。(一人の女性が二人の男性を愛してもかまわないという意味)

わたしたち男二人は、一人はあなたの南側に、一人はあなたの北側にいます。

こういう位置にいますから、ちょうどあなたは真ん中で、二人と遊ぶことができると思います。

(実際には男二人はごく近くに並んで座っている)

女：私は肝が据わっていますから、一人が南に、一人が北にいてもかまいません。

あなたも、あなたの隣の男の人(男1を指す)歌いたい。私はどちらの人についていけばいいのでしょうか。歌うことだけなら何の心配もしていません。

私を二つに割って半分ずつあなた方にあげるのとは不可能です。

男2：あなたは私たち男二人と歌うと言いましたから、私も歌います。(笑い声)
今日私たち二人が、一人の女性と歌うことができているによりうれしいです。
一人があなたの前を歩き、一人があなたの後ろを歩けば、あなたの前と後ろを守っていることになります。私たち二人のうちの一人は必ずあなたの夫になります。

女：そのような話を聞くと、どちらの人と歌ったらいいか迷います。私がどちらと歌ったらいいのかがあなたがた二人で相談して決めてください。前にも後ろにも男の人がいるのを、人に見られたら困ります。私は悪い女だと、必ず人に笑われるはずです。

男2：あなたの話はとても気に入りました。是非私を選んでください。私は世話をするのが上手ですから。かならずあなたに満足してもらえますでしょう。今までたくさんの女性と出会いましたが、気に入った女性は一人もいませんでした。私が気に入ったのはあなただけです。
妹よ、私を歌の相手にしてください。

女：私もあなたがた二人のことをよく見ていました。先ほどの男の人、あなたのこともよく見ました。あなたを選んでもいいです。先ほどの男の人はもういません。私の周りにはいる女性たちも同感だと思います。やっぱりあなたの方がいいと思います。あなたと一緒になら、私は顔をあげて堂々と歩いてもいいです。

男2：私もあなたのことをよく見ました。あなたが歌った歌はとてもおもしろいです。あなたは歌が上手だけではなく腕もあると思います。(いろいろな方面で能力が高いという意味か)あなたはなににつけてもすばらしい。すばらしい妹よ、もうここまで話したので、私のそばに来てください。

女：あなたのところへ行って、道の真ん中へ立つのはよくありません。
もし私のところへ来れば、私の前の女性たちが人に見られないように私たちを隠してくれます。私たちは、前の女性たちの後ろに隠れてこっそりと歌いあうのが一番いいのではないのでしょうか。もう私はあなたを誘いました。来るか来ないかはあなた次第です。

男2：私があなたのところへ行かないのは、それが恥だからではありません。もし、本当に行った方がいいと思えば自分から近づいていきます。周りにこれだけたくさんの証人がいるのですから、あなたは安心して私を選んで大丈夫なのです。だから、あなたがわたしのそばに来ることに何の問題もありませんよ。

女：妹の私は字が書けません。字が書けるあなたはそのことを気にしない人ですか。あなたが私の方に来る方が道理にあっています。男なのに私のそばに来る勇気がないなんて人に笑われますよ。私のそばに来たくないというのなら、もういいです。

男2：妹よ、私は白い馬で、あなたは金の鞍で、とてもよい組み合わせです。
あなたが許してくれれば、そこへ行くのはもちろん、あなたの家に婿に行ってもかまいません。みんなの前で堂々とつきあって、大勢の客を招待してごちそうをし、披露宴をしましょう。
前にいる邪魔者たちちょっとどいて、私はあなたのところに手を取りにいけます。(周囲、笑う)

女：私たちはただここで歌を歌うだけですから、そういうことはしないでください。きれいか醜いかなど、どうでもいいことです。ただ、歌が上手であればいいのです。愛情いっぱい歌えばいいのです。お互いに気に入ったら、長く歌い続けましょう。

男2：私は必ずあなたを妻にします。私の妻になれるかどうか心配しないでください（周囲、笑う）あなたを妻にしたら大事にします。あなたに噛みついて食べるなんてしません。（周囲、笑う）私はただ情の深い、良いことしか言っていないのに、あなたは意気地のない人ですね。あなたは肝が小さいようです。私は肝の据わった男で、あなたが思っているような意気地なしではありません。

女：あなたはお世辞が上手で、良いことばかり言っています。あなたが良い言葉をすべて言ってしまいましたので、犬が舐めてももう何も残っていません。私まだ若いですから、お婆さんではありません。私は本当のことを言ったのですから、ぜひ私を信じて下さい。（男2しゃがみ込む、次の男2の歌まで14秒間あく）

男2：いいですよ、いまふたりで約束して別のところへ行きましょうか。人のいないところへ行って、密かに話せば心が通じます。（8句のうち半分の4句しか歌わなかった）

女：兄よ、あなたは変な人ですね。歌っている途中でしゃがみこんでしまいました。（連れの女たち笑う）あなたが立ち上がって歌う勇気がないのは、相手に失礼なことをしていると思う気持ちがあるからです。立ち上がって人の前に姿を見せることができない人なら、私はあなたを要りません。あなたは、いったんしゃがんだら立ち上がれない人なのですね。（周囲、笑う）

男2：あなたは理由を作っていますね。たぶんおなか为空いたので食事がしたいのではありませんか。（愛情に飢えて、愛人を求めている）（周囲、笑う）あなたがそんなに愛情に飢えている人なら（あなたは、どんなに男がいても決して満足することがないほど男好きで、いつも愛情に飢えているという意）私もあなたを要りません。（周囲、笑う）あなたのような女性なら、歌わなくても、手を振っただけで男はついてきますよ。私もはっきりといいます。もうこれでいいと言うのなら、これで終わりにします。

女：あなたは肉のついていない、骨だけの人間です。あなたは三世代もの長い間女性に会ったことがない男でしょう。（連れの女たち笑う）互いに出会って歌い合うのですから、良いことだけを歌えばいいのです。相手を侮辱することはよくないことですが、あなたが言うので私も言い返すのです。やはり縁起のいいことを歌いましょう。そんなに人を侮辱する事はやめましょう。

男2：たぶんあなたのような女性が一番可愛いのだと、私は今思っています。（周囲、笑う）あなたのように（愛情に）飢えている女性が一番いい妻になるでしょう。（周囲、笑う）これから縁起のいい言葉で歌いましょう。先ほどあなたと歌っていた男にも伴奏をしてもらいます。あなたもそういう気持ちがあるのなら、良い言葉で歌いましょう。

女：さっきは曇の空になりましたが、今また晴れてきました。兄よ、あなたの顔は空のよういつも変わりますね。それじゃ、あなたが南の方に向けて歌ったら、私も南について行きます。あなたが北の方に向けて歌ったら、北に、ついて行きます。私も世の中のことは知っていますから、あなたのような男の人を怖くはありません。

男2：妹よ、あなたはそこにずっと隠れていて、どうして出てこないのですか。周りの人がこれほど期待しているのに、どうしてあなたは出てこないのですか。もしもっと早く出会っていたら、あなたの性格の悪さがわかったでしょう。もし私がこんな人を妻にしたら、村中の人があなただけのことを怖がるでしょう。

(しばらく歌が中断、女は歌を返せないでいる。女の周りの女性たちは、冗談だから、風に吹かれ、雨に降られて流されて行ってしまおうようなものだから、気にしないで、本気にしないでもって歌いなさいよ、などと口々に言っている。3分半ほど気まずい雰囲気全体を覆う。すると、3人目の男が歌い出した。)

男3：皆さんが歌わないので、私が代わりに歌いましょう。もし私が歌わないとあなた(女を指す)が歌わないから。私はもう年寄りですが、歌ってもかまわないでしょう。また続いて歌いましょう。妹よ、私たちはあなたの歌を聴きに来ました。このまま歌をやめてしまうのはよくありません。妹よ、あなたは私の家にいる妹によく似ています。私の妹ではありませんが、私の新しい友達になってくれませんか。

(女たちは逃げるように一斉に坂を降りて行ってしまう。周囲の見物人から、「追いかける、追いかける」、「アーホイ、アーホイ」と囃す声。)・・・

これは二番目の男が彼女を侮辱したために不成立になった珍しい例だとのコメントがある。もっと相手を尊敬し褒める歌が必要だったとの白族の言葉を中国語に翻訳した、施氏の評価も掲載されていた。歌の形式が五音七音で日本の和歌にも通じるし、七七七五の都都逸に通じるものもあるとの研究結果もある。今なおこの風習が残っていることに驚きを感じている。



今では山の歌垣だけでなく、歌会ステージが出来て、プロの歌手やのど自慢が競い合って歌う大会として地元だけでなく、観光客にも人気のイベントに成っているようだ。案内書に載っていた写真をここに転載しておくことにする。

